

「目には見えなくても」

(マルコによる福音書4：26-34)

イエス様は2つの「たとえ話」によって、その成長は目には見えなくても、神の国が必ず実現することを教えてくださいました。1つ目のたとえでは、神の国は蒔かれた種のように「ひとりでに」成長する、と言われていています。人は種を蒔くことはできますが、種を實に変える力はありません。種自体が成長する力を秘めています。実が熟し、収穫できるのは、種のうちに働き続けている神秘的で大きな命の力によります。目には見えない力を秘めた種が成長するように、わたしたちの目には見えなくても、神の国は確かに、着実に成長している、と主イエスはこのたとえで言われています。わたしたちにできることは、農夫が雑草をとり、土を耕すように、神様の力が働くための土壌を整えることでしょう。農夫は毎日汗をながして農作業をします。目には見えなくても、種の力を信じているからです。わたしたちも農夫のように、目には見えなくても、神の国が実現するために確かに働いている神様の力を信じたいと思います。

2つ目ははからし種のたとえ話しです。とても小さなからし種ですが、成長すると鳥が巣を作ることができるほどに大きくなります。これは驚くべきことです。神の国のはじまりは、からし種のようなものだとイエス様は言われます。はじめ小さくとも、からし種が大きな木に成長するように、神の国も世界に広がるというのです。イエス様のお働きはイスラエルの小さな村から始まりました。それが今や世界中に福音が伝えられています。イエス様は大人数をまとめて先導するのではなく、毎日出かけ、一人ひとりと出会いました。途方に暮れる地道さです。この世的に見れば、どう考えても非効率です。しかもそのお働きは、十字架上の死によって完全に終わったと思われました。非効率であるばかりか、非力でした。しかしどうでしょう。その信仰は消えるどころか、福音は今、全世界に届けられているのです。小さなからし種ほどで良い。わたしたちの働きが小さく、非効率と思われようと、非力と言われようと、それが神の御心であるならば、神はその計り知れない力によって、確かに、必ず実りをもたらしてください。目には見えなくても、神の国は必ず実現します。

何かを決断しようとしたり、歩みだそうとする時、目に見えるものばかりを信じるのではなく、不確かに思えても、そこに神の心があるのかどうかをこそ見つめたいと思います。そしてそうであると感じられるならば、神の力を信じて歩み出す、クリスチャンとして生きたいと願います。